

## 活動報告 1 プロジェクト研究・共同研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 公開日: 2017-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15014/0000000192">https://doi.org/10.15014/0000000192</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



## 歴史的音源からみる三味線音楽の音楽的研究—町田佳聲とその周辺

研究代表者：山田智恵子

プロジェクト研究（継続）

共同研究員：大久保真利子（福岡国際大学非常勤講師）、小塩さとみ（宮城教育大学教授）、大西秀紀（京都市立芸術大学客員研究員）、蒲生郷昭（東京文化財研究所名誉研究員）、久保田敏子（京都市立芸術大学名誉教授）、薦田治子（武蔵野音楽大学教授）、田中悠美子（義太夫三味線演奏家、研究者）、寺田真由美（相模女子大学非常勤講師）、時田アリソン（日本伝統音楽研究センター所長）、野川美穂子（東京藝術大学非常勤講師）、配川美加（放送大学非常勤講師）、廣井榮子（大阪教育大学非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

### 開催趣旨：

町田佳聲は、五線譜による楽譜集『三味線声曲における旋律型の研究』以後、やり残した仕事のいくつかをLPレコードアルバムの形で発表している。それは現存三味線音楽に見られる、先行芸能・流行歌・古浄瑠璃などの引用の考証と、上方と江戸の音楽様式の違いの把握などであり、その考察の材料となる音源を多数残した。それらのレコードアルバムは、町田の三味線音楽研究人脈によってなされたもので、現在我々が演奏家の協力のもと同じことをしようとしても、かなり困難な状況にある。従って、その歴史的音源の内容を検討しつつ、三味線音楽における通ジャンルの旋律型を音から辿ることを試みる。各種の三味線音楽研究者との共同研究が必要であり、主に前年度からのメンバーの継続が中心となる。また、成果発表については、歴史的音源を使用して、市民講座のかたちで、一般に公開する予定である。

2016年度

第1回研究会 2016年5月29日（日）12時～17時30分

場所：合同研究室 1、(2) (3) は一般にも公開。

- (1) 今年度の研究打ち合わせ
- (2) 豊竹嶋太夫師に聞く「義太夫節における地合と詞」  
聞き手 山田智恵子 神津武男（伝音センター客員研究員）
- (3) 嶋太夫師を囲んでの座談会

ゲストスピーカー：豊竹嶋太夫師（文楽、人間国宝）、神津武男氏（伝音センター客員研究員）



第2回研究会 2016年11月19日(土) 12時～17時30分、合同研究室2

- (1) 岡本文弥著『新内曲符考』について ----- 林一行(京都市立芸術大学大学院音楽研究科日本伝統音楽研究専攻学生)
- (2) 「大薩摩四十八手」について ----- 蒲生郷昭
- (3) 次年度の成果発表計画

第3回研究会 2017年2月5日(日) 12時～17時30分、合同研究室2

- (1) 国際文化振興会制作のSPレコード集『日本音楽集』について(その2) ---- 大久保真利子
- (2) 話題提供「〈〇〇小唄〉を整理する」----- 寺田真由美

第4回研究会 2017年3月10日(金) 12時～18時、合同研究室2

- (1) 私が接した町田先生 ----- 蒲生郷昭
- (2) 長唄の旋律型を考える―獅子物の「クルイ(五段)」の比較 ---- 小塩さとみ
- (3) 成果報告について

第5回研究会 2017年3月11日(土) 10時半～17時、合同研究室2

- (1) 町田の「木やり歌」研究を考える ----- 山田智恵子
- (2) 京都のレコード会社 東洋蓄音機・オリエントレコードについて ---- 大西秀紀
- (3) 次年度成果発表の日程と内容について

## 音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究(継続)

共同研究員：安納真理子(東京工大)、上野正章、大谷節子(成城大)、大山範子、柴田真希、高橋葉子(本学客員研究員)、田草川みずき、田中敏文、玉村恭(上越教育大)、中尾薫(大阪大)、長田あかね、中嶋謙昌(灘高)、丹羽幸江(本学客員研究員)、Pellecchia Diego、森田都紀(京都造形芸大)、横山太郎(跡見学園女子大)

開催趣旨：

能の多くの登場人物は囃子にのって登場する。そして、すべての登場人物は台詞の一部を必ず歌う。能は音曲の要素なしにはなりたないものである。室町期以来の伝承の過程で、能の音曲は、娯楽と社交の、儀礼遂行の、修道の、手段となってきており、それにともない能の音曲は、構成やテクスチャーにおいて、独自の発展をとげ、日本の伝統芸能の中でもユニークな存在となっている。だが、ユニークさだけをうたっているわけにはいかない。時代の流れの中で、音曲は様々な影響を被り、変化を受けてきた事実があり、現代も新陳代謝を続けている。本研究会は、能の演出の進化・多様化を、音曲面を中心に見渡すことをめざす。

2016年度の研究会

時間：13時30分―17時

場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室(新研究棟7階)

- 5月7日(土) 新作能「パゴダ」をいっしょに歌って、演出の問題を考えてみる—その1(安納)
- 6月4日(土) 新作能「パゴダ」をいっしょに歌って、演出の問題を考えてみる—その2(安納)
- 7月2日(土) 参加者各人による、現在のプロジェクトあるいはこれからのプロジェクトについての報告(全員)
- 8月6日(土) 『謡を楽しむ文化—京都の謡の風景』(近刊)序文の検討(藤田)、復曲における旋律と拍子の選択肢(丹羽)
- 9月3日(土) 田安宗武による「砕動」の舞譜について(中尾)
- 10月1日(土) D.クランドルさんの英語能〈ジェーン物狂〉の音楽面・演劇面について(安納)、明和改正謡本の節付「ウ」—江戸中期能楽観世流の中音旋律(高橋)
- 後期は、藤田のサバティカル休暇のため、休会。

## ■ 雅楽および関連芸能の歴史的音楽動作様式をさぐる —多様な解釈の可能性—

研究代表者：田鍬智志

共同研究(2016年度開始)

共同研究員：ネルソン スティーブン G. (NELSON, Steven G. 法政大学文学部教授)、今 由佳里(鹿児島大学教育学部准教授)、中尾 薫(大阪大学大学院文学研究科准教授)、平野 みゆき(金蘭千里高等学校中学校社会科教諭)、上野 正章(大阪大学招聘研究員)、増田 真結(京都市立芸術大学音楽学部講師)、ジョライ アンドレア (GIOLAI, Andrea 交際交流基金フェロー・ベネツィア大学博士課程)、

雅楽において楽譜・舞譜は、古今それぞれの時代に撰述がなされ、少なからず伝存している。これまで多くの研究者によって、雅楽古譜の解読がなされ、そして音源化されてきた。再現・演奏され録音された音楽は、あたかも真実であるかのような印象があるが、しかし、備忘的・簡易的記譜法で記されているそれら楽譜史料は、解釈如何によって、そこから様々な音楽・舞踊が立ち現れうるものである。当研究会では、メンバー夫々が対象とする音楽・芸能に対し(唯一の解釈に収斂させてしまうのではなく)さまざまなアプローチにより、さまざまな解釈を提示しあって、さまざまな再現・復興の可能性を追求していく。

■全体会：8月19日(金) 於伝音センター・9月18日(火) 於宇治市民会館・宇治市源氏物語ミュージアム  
各研究員の研究計画発表・実演つき講座等の実施について策定した。9月18日午後は、源氏物語ミュージアム企画展「源氏物語の音楽」(田鍬活動報告参照)見学。

■往生講式(管絃講) 厳修にむけた史料検討・五線訳譜作業・練習のための部会：11月27日(日)・12月25日(日)・1月22日(日)・2月13・14日(月火)・2月28日(火)・3月9・10日(木金)以上於伝音センター・3月11日(土) 於専修寺京都別院

連続講座H「音楽実践をもって徳を積む—平安末期・鎌倉期の管絃講(往生講式)、そのころ—」の一環として、平安末期～南北朝期の古楽譜・式次第・式文旋律作法書の解読・解釈にもとづく順次往生講式(管絃講)を講座2日目(3月11日)に修した。訳譜作業・演奏には、研究会員および演奏家・学生等に協力を仰いだ。配役・役割は以下のとおり(以下、所属は2017年3月現在)。

鷹阪 龍哉(導師, 式役, 伽陀/龍源寺住職)・中川 佳代子(箏, 歌詠/箏曲演奏家)・上野 正章(笏拍子, 磬, 歌詠)

／式文校正)・グルピンスカヤ, ナタリヤ (歌詠／国際日本文化研究センター客員研究員)・今 由佳里 (歌詠／式文校正)・中尾 薫 (歌詠／式文校正)・田鍬 智志 (琵琶, 歌詠, 訳譜, 編集, コーディネート)・管 亭安 (琵琶, 訳譜／大学院音楽研究科研究留学生)・吉岡 倫裕 (龍笛／明壽院住職・大学院音楽研究科修士日本音楽研究専攻)・陳宗彤 (笙／大学院音楽研究科研究留学生)・伊藤 慶佑 (箏, 訳譜／音楽学部作曲専攻)・安田 信源 (法話／安立寺住職)・東 正子 (撮影／伝音センター非常勤講師)・ネルソン, スティーブン G. (訳譜, コーディネート)・平野みゆき (訳譜) ほか。

## 「豊後系浄瑠璃の史料と伝承—常磐津節を中心に—」

研究代表者：竹内有一

共同研究 (2016 年度開始)

共同研究員：大西秀紀 (京都市立芸術大学客員研究員)、小西志保 (竹内研究室研究嘱託員、邦楽演奏家)、常岡亮 (常磐津協会理事、邦楽演奏家)、配川美加 (東京芸術大学非常勤講師)、前島美保 (日本学術振興会特別研究員、京都市立芸術大学客員研究員)

豊後系浄瑠璃諸派のうち、流祖宮古路豊後掾の直系で現存最古とされる常磐津節を中心に、総合的な調査研究を進める。28 年度は、ゲストスピーカーを交えた分科会を中心に開催し、以下の課題を適宜分担して研究する。(1) 新出常磐津正本の書誌的調査・翻刻・歴史的考察、(2) 他流との掛合ものの実践的研究、(3) 稀曲・復曲に関わる予備的研究、(4) レコード音源の調査と考証。

成果の公開については、28 年秋に、課題 (2) のプレゼンテーションとして、外部団体との共催により公開研究会を開催予定。その他の課題については、29 年度以降に順次、公開方法を検討する。

第 1 回 2016 年 5 月 28 日 (土) 13 時～17 時

史料調査とミーティング (浄瑠璃本閲覧の方法論)、場所：国立国会図書館

第 2 回 2016 年 5 月 29 日 (日) 11 時～19 時

常磐津節の伝承実態調査 (常磐津協会主催演奏会)、場所：国立劇場

第 3 回 2016 年 6 月 20 日 (月) 18 時～20 時

ミーティング (研究の目的と方法)、場所：グランビア京都ラウンジ

第 4 回 2016 年 6 月 21 日 (火) 15 時～18 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 1、場所：日本伝統音楽センター 601 研究室・805 研究室  
(以下の場所は、特記なき場合、前に同じ)

第 5 回 2016 年 7 月 21 日 (木) 13 時～18 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 2

第 6 回 2016 年 7 月 22 日 (金) 10 時～15 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 3

第 7 回 2016 年 8 月 4 日 (木) 13 時～19 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 4

第 8 回 2016 年 8 月 5 日 (金) 10 時～14 時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 5

第9回 2016年8月8日(月) 14時～18時

ミーティング(伝音セミナー「昭和の関西歌舞伎の音楽を聴く」を振り返って意見交換)

第10回 2016年8月9日(火) 13時～17時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業 1

第11回 2016年9月12日(月) 14時～19時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業 2

第12回 2016年9月13日(火) 10時～16時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業 3

第13回 2016年9月22日(木) 14時～19時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 6

第14回 2016年9月23日(金) 10時～16時

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復準備 7

第15回 2016年10月3日(月) 14時～18時

常磐津と長唄の掛合上演に関する実践的研究(長唄喜楽会と合同)、場所:京都芸術センター大広間、ゲストスピーカー:今藤政之祐(長唄演奏家)

第16回 2016年10月24日(月) 14時～18時

常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「汐見瀧松常磐津」1

第17回 2016年10月25日(火) 11時～16時

常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「汐見瀧松常磐津」2

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業 4

第18回 2016年11月21日(月) 15時～19時

常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「汐見瀧松常磐津」3

第19回 2016年11月22日(火) 13時～17時

常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「霄袖愛釣人」1

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業 5

第20回 2016年12月15日(木) 15時～19時

常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「霄袖愛釣人」2

第21回 2016年12月16日(金) 10時～17時

常磐津古正本の書誌的研究と翻刻「霄袖愛釣人」3

常磐津家元所蔵正本の書誌調査と修復作業 6

第22回 2017年1月23日(月) 13時～17時

常磐津古正本の書誌的研究と検討「蝶羽風梅暫」「心情語而御神楽」「和事色世話」「道行丸い字」「初深雪花の袖笠」1

第23回 2017年1月24日(火) 13時～16時

常磐津古正本の書誌的研究と検討「蝶羽風梅暫」「心情語而御神楽」「和事色世話」「道行丸い字」「初深雪花の袖笠」2

第24回 2017年2月2日(木) 16時～19時

ミーティング「2016年度の常磐津古正本の修復作業を振り返って」

場所:京都芸術センター

第25回 2017年2月3日(金) 10時～15時

ギャラリートーク・司会「特別展観：常磐津正本の修復と書誌的研究—保存修復専攻とともに音楽研究の原点をつくる—」、場所：日本伝統音楽研究センター展示ギャラリー

ゲストスピーカー：常磐津文字太夫（常磐津節保存会会長）

第26回 2017年3月23日（木）13時～18時

研究報告：(1) 竹内「稽古本初版の決まり事—修復作業から分かったこと—」、(2) 配川「著書紹介、政太郎プロジェクト近況」、(3) 前島「阪東亀寿旧蔵史料の特徴」

第27回 2017年3月24日（金）10時～15時

研究報告：(1) 大西「竹内研究室に寄託された常磐津レコードの試聴と特徴」、(2) 小西・常岡「復曲候補本の読解作業について」

復曲候補本の読み合わせ

ミーティング（今年度のまとめ、来年度の課題）

## 近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ

研究代表者：武内恵美子

共同研究（2014年度開始、継続）

共同研究員：明木茂夫（中京大学教授）、遠藤徹（東京学芸大学准教授）、榎木亨（関西大学大学院博士課程後期課程／日本学術振興会特別研究員）、小林龍彦（前橋工科大学名誉教授）、小島康敬（国際基督教大学教授）、高橋博巳（金城学院大学名誉教授）、平木實（天理大学元教授）、南谷美保（四天王寺大学教授）、山寺美紀子（國學院大學北海道短期大学部兼任講師）、渡辺信一郎（京都府立大学名誉教授）

江戸時代の儒学における音楽のあり方は、音楽学的知識と思想史の知識の両方を必要とするが、それぞれの分野で通用するほどに両分野に精通している研究者は申請者も含めて皆無である。それゆえ、それぞれの分野からの共同研究が必須である。本共同研究では、音楽学の立場からは雅楽・琴の研究者を、思想史の立場からは礼楽思想、儒学教育史の研究者を、その他関連事項として和算研究、朝鮮文化研究の研究者を招聘する。それによって思想史・文化史・音楽学の総合的視野から、近世日本において礼楽思想における楽思想がどのように展開したのか、実際にどのような音楽が行われたのか、それによってどのような文化が生じ、他の音楽や文化に影響を及ぼしたのか等について研究する。

第1回 2016年7月16日（土）13:30～18:00

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1 山寺美紀子「藤澤東暁と泊園書院の琴——徂徠琴学と心越琴楽の行方」

発表2 榎木亨「日本近世期における『律呂新書』の受容と変容 —蔡元定と中村惕斎・蟹養斎の比較を中心として—」

第2回 2016年7月17日（日）10:30～16:00

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表 1 高橋博巳「京都の玉堂琴士」

発表 2 遠藤徹「二つの近世再興の催馬楽譜 ～綾小路俊宗と毛利壺邸」

第 3 回 2016 年 10 月 29 日 (土) 13:30～18:00

場所：新研究棟 7 階 合同 2

内容：

発表 1 平間充子「国家儀礼としての百戯と日本における展開  
——踏歌節会の淵源および相撲儀礼について」

発表 2 渡辺信一郎「唐代の儀礼と音楽——元会儀礼を例として」

第 4 回 2016 年 10 月 30 日 (日) 14:00～16:40

場所：京都テルサ 大会議室

内容：(第 45 回公開講座)

14:05～15:00 趙維平氏講演「唐代雅楽の伝搬と平安期の「雅楽」

15:00～15:10 休憩

15:10～16:05 スティーヴン・ネルソン氏講演「平安期の「雅楽」

16:05～16:15 休憩

16:15～16:35 座談会(趙先生、ネルソン先生、武内)

第 5 回 2016 年 11 月 13 日 (日) 9:00～12:00

場所：中京大学 1 号館 311 号室

内容：シンポジウム「礼楽思想の楽の諸相」(日本音楽学会全国大会)

パネリスト：小島康敬、小林龍彦、平木實、渡辺信一郎、コーディネーター：武内恵美子

武内恵美子「礼楽思想の楽思想研究概要」

渡辺信一郎「唐代の儀礼と音楽—元会儀礼を例として」

平木實「朝鮮半島の儒学と礼楽」

小島康敬「江戸儒学と「礼楽」思想—徂徠・春台を中心に—」

小林龍彦「和算における律楽研究」

第 6 回 2017 年 3 月 4 日 (土) 13:30～18:00

内容：

発表 1 平木實「朝鮮時代の唐琴(七絃琴)」

発表 2 明木茂夫「南宋張炎『詞源』卷上「結聲正訛」考 —その犯調の方式と「律呂四犯」との関係性 (附)  
曾侯乙墓出土の竹製横笛「箎」について」

第 7 回 2017 年 3 月 5 日 (日) 14:00～16:40

場所：新研究棟 7 階 合同 2

内容：(第 47 回公開講座)

14:05～14:50 高橋博巳氏講演「浦上玉堂の京都」

14:50～15:00 休憩

- 15:00～15:45 遠藤徹氏講演「江戸時代の催馬楽復興～綾小路俊宗と毛利壺邸」および毛利壺邸版催馬楽再現演奏
- 15:45～15:55 休憩
- 15:55～16:40 武内恵美子講演および演奏「浦上玉堂と琴・催馬楽」